

# KJ法の適用とその拡大

一般社団法人efco.jp  
 一般社団法人 光楓座

代表理事  
 佐藤建吉

KJ法は、創造的問題解決のためにいろいろの対象や組織で利用されている日本初のメソッドである。その名は、川喜田二郎（1920～2009年）氏に由来するものである。同氏は、文化人類学者であり、国内外の現地調査で得た膨大な資料を整理し、伝達するために効果的な方法を試行錯誤して獲得した。

その方法が、KJ法として、資料の整理はかりでなく、新しく発想するための思考の整理、提案された課題解決への糸口

のつけ方、さらにその実施に向けた方向づけ等にも利用されるようになり、拡大してきた。KJ法は、小学校の教育計画や企業や国家機関での政策立案の方法まで、広く利用されている。

筆者は、本誌43号の新春特別号の年頭所感で、（一社）efco.jp

が取り組む「エコ・フューチャーセッション」構想に触れた。それは、千葉県大多喜町で廃校になった老川小学校を基地として「先進的な田舎」をつくるためのプロジェクトである。

「地方創生」のキーワードは、地元と他所とつなぐ関係が重要であるが、これを進めるために、efc

oでは、「フューチャーセッション」と呼ぶ課題解決の機会としている。これは、本質的にはKJ法の適用にほかならない。

地元住民のほか他所の市民・学生・NPO・企業・役所・自治体機関などの多様な方々の参加により、個別のテーマを「フューチャーセッション」として、小グループになり、意見交換・提案を行い、自由な発想で、課題解決を行う。その過程において、KJ法に倣った問題発見、課題抽出・選択、そのグループ化、図解による見える化、そしてショートプレゼンなどを、行う。

この「フューチャーセッション」はワークショップでもあり、ブレインストーミングとしての適用でもある。生活の場や立場の異なる人で、しかも初対面の人であっても、自己紹介の局面から、一方通行の講演型の勉強会とは全く異なる雰囲気が生まれる。相補・共同、相補創成のカタチが見えてくる。

KJ法が教えてくれるカードを用いた要点整理は、キーワード化によって明確になる。それは、調査活動で得たヒアリング資料のほか、紙や写真による現地資料に対する場合には、要約表現であ

り理解を容易にさせる。一方、課題の解決や新たな発想を行うことが求められる場合においても、キーワードをまず書き出し、その関連を探り、グループピングして、相互の関係性を吟味することが、共通性や対立概念などを明確にしてくれる。筆者は、「見える化」、「分かる化」、そして「出来る化」の三つの連鎖が重要であるとしているが、すべてがここに含まれている。

さらに、ICTが発達している今日においては、アナログの「カード」から、類似であってもデジタルのツールを適用したカードデータの入力が可能で、グループピングが容易で修正も可能なソフトウェアも提案され実用化されている。中には、動的でビジュアル的なカードデータの入力が容易で修正も可能なソフトウェアも提案され実用化されている。中には、動的でビジュアル的なカードデータの入力が容易で修正も可能なソフトウェアも提案され実用化されている。中には、動的でビジュアル的なカードデータの入力が容易で修正も可能なソフトウェアも提案され実用化されている。

さらに、ICTが発達している今日においては、アナログの「カード」から、類似であってもデジタルのツールを適用したカードデータの入力が可能で、グループピングが容易で修正も可能なソフトウェアも提案され実用化されている。中には、動的でビジュアル的なカードデータの入力が容易で修正も可能なソフトウェアも提案され実用化されている。

ツールの活用も、また新たな展開や応用を誘導しているといえる。efcoでは、これまで「フューチャーセッション」を6回以上行っている。テーマは、文化創造、地域資源としての竹の利用、同じくイノシシ・シカの利用、イノシシ・シカの利用総合事業、溪谷と温泉から始まる地域活性化、大多喜の未来への提言など多様であるが、地元との連携をつくりだす切っ掛けとなっている。

同じく、KJ法を基本とするセッションを取り入れた大学の講義も有効である。筆者は、千葉大学の1・2年生向けの普遍科目の「科学技術と現代社会」という講義においては、毎週の講義のテーマに応じて学生によるセッションを行った。学部の異なる学生同士の間関係づくり、意見発表のスキルアップなども副産物として生まれた。また専門科目の「都市エネルギー概論」においても、エネルギー政策や技術の、そして社会情勢について、自由に意見交換し、プレゼンする経験は、ただ聞くことから、聞き・考え・意見を述べられる機会となり、おそらく行動することへ敷居を下げてくれるだろうと期待している。KJ法の妙味がここにもある。



efcoでの「エコ・フューチャーセッション」の一場面